

## アクィレイア (Aquileia)



アクィレイアの遺跡地域と総主教聖堂バジリカは1998年に世界遺産に登録されました。アクィレイアは、トリエステからヴェネツィアに戻るレジョナーレで35分にあるチェルヴィニャーノ駅からバスで15分ほどのところにあります。もともと、アクィレイアを訪ねることを目的としてこの旅行を計画したのですが、トリエステの印象が強過ぎてちょっと霞みがちでしたが、ここを訪れるとその霞もどこかに行ってしまいました。さすがに世界遺産です。アクィレイアも素晴らしいところでした。また、都会のトリエステと田舎のアクィレイアのギャップもこの旅を楽しませてくれました。但し、都会のトリエステも、大昔にはアクィレイアによって支配されていた過去を持っているのです。

アクィレイアは、紀元前181年にローマ人によってヒストリア人に対する戦いの基地としてイタリアで4番目に建設された都市です。アウグストゥスの治世下（紀元前27～14年）で、この地域の首都として人口20万人を擁し、「第2のローマ」と呼ばれるまでに繁栄していたのです。西暦313年にコンスタンティヌス帝がミラノ勅令を出してキリスト教を承認すると、アクィレイアはドナウ河流域、ハンガリー、イストリア、バルカンなどへのキリスト教布教の拠点となり、4世紀末までには街を囲む城壁も造られました。しかし、452年にフン族の王アッティラに破れ、壊滅的な打撃を受けてしまいました。しかし、キリスト教布教の拠点としての司教座は、その権力は持ち続け、1019年に司教ボルボーネが現れて、城壁に囲まれた新しい要塞を築き、港を掘り広げ、古い聖堂の遺構の上に新しい司教座大聖堂を建てたのです。司教座の政治的権力は、13世紀に最高に達しましたが、1420年に、ヴェネツィアとの戦いに敗れてアクィレイアは衰亡に向かい、現在の田舎街となってしまいました。

ここに来ると、アクィレイアの昔の繁栄を感じることはありません。古代ローマ遺跡に囲まれたのんびりした田舎街です。街にはホテルも数えるほどしかありません。ほとんどの観光客は海の方面数キロ先にあるリゾート地グラードの高級ホテルに滞在し、観光バスで日帰りツアーをするのでしょう。トリエステからレジョナーレに乗りチェルヴィニャーノ駅下車、待ち時間ゼロでバスに乗ってアクィレイアに向かった観光客は、我々以外に誰もいませんでした。田舎の快適なエアコン付きバスに乗り15分ほどでアクィレイアに到着です。インフォメーションで英語の音声ガイドを借り、いよいよローマ遺跡観光の開始です。ここでは、あちこちを掘り起こし、そこにはローマ遺跡が顔を出しているのです。インフォメーションに向かう途中にも、何の説明もない遺跡がありました。また、インフォメーションの直ぐそばにも、古代ローマ時代の街道の遺跡がありました。この街道は **Decumanus** と言われる東西を結ぶ街道でした。南北を結ぶ **Cardo Maximus** の遺跡もどこかにはあるはずですが。



最大のローマ遺跡は、インフォメーションから5分ほどのところにあるフォロです。英語の音声ガイドは長い説明をしてくれますが、30%は理解不能で50%は聞いていないので、結局、20%くらいしか頭に残っていません。フォロには何本かの列柱が建っています。その周りに、数え切れないほどの遺跡が、ほとんど修復されない状態で散らばっています。今でも修復作業をしているようで、工事作業の用具が置かれています。そんな状態でも、ここには、2000年以上前に繁栄していた古代ローマのフォロがあったことは事実であり、その事実を、意味も理解せずに感動してしまいます。



ガイドに沿って進むと、今度は、River Portの遺跡がありました。海から数キロ入ったこの地域に、幅48メートルの川を利用し、満潮時の高さに合わせてここに港を造ったとのこと。



今では 48 メートルの川のルートが変わり、ここにあるのは小さな小川と田舎の静かな並木道だけです。遺跡を見ながら気持ちの良い散策が出来るのです。驚いたことに、この並木道の両側には、無造作に彫刻が施されたローマ時代の遺跡が置いてあり、遺跡をベンチとして利用できるのです。考えてみたら、日本にも同じような環境があります。田舎の小道の両側に無造作に置かれた石のお地蔵さんや仏様があります。ここもそのような感じなのですね。



小道を進むと、総主教聖堂が見えてきます。この大聖堂は、司教ボルポーネがローマ時代の教会堂の遺構に 11 世紀にロマネスク様式で建てられました。しかし、13 世紀の地震でほとんどの部分を破壊されてしまい、14 世紀にゴシック様式で建て直されています。



大聖堂を建て直した後、床の下にローマ時代の教会堂の床が発見されました。そこには一面にモザイクが施されていたのです。ローマ時代に、言葉の違う他民族にキリスト教を布教するには言葉よりも絵でした。このモザイクは、キリスト教を他民族に布教するために作られたキリスト教の教えが描かれているのです。今や、14世紀の大聖堂の床はほとんど取り去られて、このローマ時代のモザイク床が使用されるようになっていました。従って、床の位置が下がったために14世紀の聖堂の柱はその基礎までむき出しになってしまっているのです。このモザイク床は、聖堂の鐘楼の周りまであり、現在の聖堂よりもはるかに大きな面積を占めています。シチリアで見た同じ世界遺産でもあるローマ時代のお屋敷の床のモザイク（ビキニの女性の模様）は、ここのモザイクの足元にも及びません。ここを見ただけでも、この聖堂が世界遺産に登録されて当たり前だと感じました。



聖堂には地下礼拝堂があり、そこは10世紀建造時のままで残されています。当時のフレスコ画が壁と屋根の全面に描かれていて度肝を抜かれてしまいました。古いフレスコ画は、美的感覚と芸術性には大分落ちますが、何とも言えない神聖な雰囲気を感じてしまいます。即ち、ルネッサンス時代の素晴らしいフレスコ画よりもずっと神秘的で、キリスト教の聖なる雰囲気を醸しだしているのです。



総主教聖堂で感動した後に、考古学博物館に入りました。勿論、ここに入るには入場券が必要ですが、たった6ユーロの入場券を買うと、何とDVDのおまけが付いてきます。それに、この周辺から集められた数え切れない数の遺跡が展示され、更には、発掘されたローマ時代の教会やお屋敷の床のモザイクを丹念に修復して展示しているのです。かなり充実した博物館でした。残念ながら、撮影は禁止ですが、DVDが付いてくるのですから文句は言えません。



ここであげた遺跡のほかにも、歩けば棒にあたるように、遺跡があちこちで顔を出しているのです。まだ、発掘されていないところもありますので、最終的にはどれくらいになるのか想像も付きません。音声ガイドでも最後に、現状はここまでだが、今後、発掘が進めばもっと展示物も充実して、昔のことをもっと理解するのに役立つだろうと説明がありました。数年後にまたこの世界遺産を訪ねてみたいものです。

アクイレイアには、もう一つ、初期キリスト教博物館があります。この博物館には、ここで発掘されたローマ時代の教会堂のモザイクと石碑や彫刻等が展示されているそうです。入場料は無料なのですが、残念ながら、午前中だけしか開いていないために入ることが出来ませんでした。

トリエステからアクイレイアに入るには、ヴェネツィア行きのレジョナーレで 35 分のところにあるチェルヴィニャーノ駅に行きます。レジョナーレは、1 時間に 1 本あり、料金は 3.85 ユーロです。チェルヴィニャーノ駅前からグラード行きの路線バス (SAF) に乗り、約 15 分 (片道 1.25 ユーロ) で到着です。日曜日には、バスは 1 時間に 1,2 本ほどあります。ウェブに日付ごとの時刻表がありますので、行く日付を指定して、バスの時刻表を確認したほうが良いと思います。バスのチケットは、バスの中では買えません。多分、駅のカフェで購入可能だと思いますが、確認していません。我々は、列車が駅に到着後直ぐに、切符を買わずに、駅前に来たバスに飛び乗ってしまいました。バスの運転手さんから、次の停留所 (Autostazione) でチケットを購入するように指示され、指示通りに Autostazione でチケットを往復分購入して、同じバスに乗り込みアクイレイアまで行きました。親切な運転手さんで、購入する間、他にも乗客もいたのですがバスを待たせておいてくれました。いつも思うことですが、田舎の人は親切で良い人たちです。

帰りも、時刻表どおりにバスが来て無事にチェルヴィニャーノ駅まで戻り、レジョナーレでヴェネツィア・メストレまで行き (1 時間 29 分ほどで 6.15 ユーロ)、そこでユーロスターに乗り換えて、ミラノ中央駅まで (30.5 ユーロ) 戻ってきました。

ヴェネツィア・メストレからミラノ中央駅まではユーロスターで 2 時間 20 分です。大分、早くなりましたね。今や、ミラノからヴェネツィアへの日帰り旅行も十分に可能です。